

グループインタビューでの意見の反映について

参考 1

■健康・福祉分野

区分	意見	反映箇所		
健康・福祉分野	基本構想	・精神障害者は、夜間に体調が悪化する場合が多く、夜間の緊急医療体制を確立してもらいたい。	第3章まちづくり大綱 1－基本施策（1）健康づくりの推進 〔施策4 地域医療体制の整備〕	
		・うつ病などに対する啓発教育の徹底を行い教育することで、不調があれば早期に病院にかかることができる。また、差別なども減ると考える。	1－基本施策（1）健康づくりの推進	
		・提言書では、「3食きちんと取る」との表現があるが、「きちんと」の意味に込められた栄養バランスがとれた食事という意味を表現し切れていないのではないか。	1－基本施策（1）健康づくりの推進	
		・武蔵野市では、住宅に相談員を配置した子どもなどの居場所を提供するサービスがある。府中市においても、市内4か所で同様に、子どもの居場所（駆け込み寺）が提供できないか。私の仲間に、中・高生に500円くらいで夕食を提供したいと考えている人もいる。	1－基本施策（2）子育て支援 重点プロジェクト4：健康で元気なまちづくり 〔施策6 地域における子育て支援〕	
		・多世代交流広場「ビオラ浅間山」を開いているが、子育て世代と地域の交流を深めることを図り、浅間町会館で月1回開催している。地域の方が一緒に楽しみながら、子育てを支援する居場所として進め、将来的には開放されて、お母さんたちが地域の人たちとふれあえる場を提供していきたい。		
		・市民の子育て広場や情報誌をやっている人が中心で市民が作った府中子育て広場「ひろげよう！子育てひろばのわ」というイベントを実施している。市は数年で担当者が変わるが、一步踏み込んで市民ニーズを把握してもらいたい。	1－基本施策（3）高齢者サービスの充実 〔施策13 高齢者の生活支援〕	
		・高齢者の孤立や孤立死を防止するための取組に地域市民の方々が協力を得られた。市民の方々の協力も必要であり、今後も協力をお願いしたい。		
	・障害者について、「偏見をなくして」という表現があるが、とてもありがたい。発達障害を持った子ども達がいること、また急に障害になることもあり得ることで、生きる希望をなくさないような支援をお願いしたい。	1－基本施策（4）障害者サービスの充実 〔施策16 障害者の社会参加支援〕		
	基本計画	重点プロジェクト	・人は、健康のための予防などの事前対策をとることができる。そのような中で、仲間づくりが重要である。また、自分の健康づくりも必要だが、世代を超えての健康づくりが重要である。	プロジェクト4：健康で元気なまちづくり 〔施策1 健康づくりの支援〕
			・お年寄り子どもが大好きであり、地域に集まる場所などの仕掛けがあると良いので、地域で運営できることが望ましい。	プロジェクト4：健康で元気なまちづくり 〔施策11 高齢者のいきがいづくりの支援〕
健康の推進		・相談については、病的な状態になる前に相談することが重要である。病気になる前に相談できるサービスを提供しているグループの意見も踏まえた取組が必要である。	施策1 健康づくりの支援	
子育て支援		・子育て広場を地域のために開催しているので、協働を進めるに当たって文化センターの備品の利用や資料の配置などについて、配慮してもらいたい。	施策6 地域における子育て支援	
		・子育て広場など数を増やすには行政の手助けが必要であり、補助を出していただきたい。		
・子育て支援とあるが、「子育て家庭支援」が必要と考えている。子どもだけではなく、親や家族のサポートが必要であり、家庭支援の視点が不足していると感じた。	施策7 子育て家庭の育児不安の解消 施策8 子育て家庭の経済的負担の軽減 施策9 ひとり親家庭への支援			

健康・福祉分野	子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待等への対応の手段としての24時間体制で受け入れを行っている。また、オープン型の病児・病後児保育なども徐々に利用が増えてきている。 	施策7 子育て家庭の育児不安の解消 施策8 子育て家庭の経済的負担の軽減 施策9 ひとり親家庭への支援 施策10 保育サービスの充実
		<ul style="list-style-type: none"> ・市への要望としては、24時間体制の中で、いつでも受け入れられる体制（お母さんの心の疲れや病が落ち着くまで）受け入れられる施設ができれば良いと考える。命に関わる問題でもあり、今後の政策に盛り込んでいただきたい。待機児解消も重要であるが、このような方策も検討していただきたい。 	施策10 保育サービスの充実
	高齢者サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険ができたことで、家庭に訪問できるようになった。その際に、高齢者と障害者の世帯など、問題を発見できるようになった。親が倒れると障害者がともに倒れてしまう危険な世帯でもあり、このような世帯を発見した場合には、専門家につなげていく必要があると考える。 	施策13 高齢者の生活支援 施策14 介護保険制度の円滑な運営
		<ul style="list-style-type: none"> ・一人住まいのお年寄りの対策が問題だが、個人情報保護のため情報を公にできないので、まず自分の安全を守り、隣人を助けるよういわれているが、もう少し手を差しのべることはできないか。いざというときに誰に誰が訪問するかを決めておければ良いのではないか。 	施策13 高齢者の生活支援
		<ul style="list-style-type: none"> ・自治会で高齢者の見守りをしているが、高齢者の半分しか把握しておらず、今後8割を把握したいとあるが、100パーセントにしてほしい。誰にも看取られずに亡くなるのは困るので、集合住宅の高齢者の情報を得て、現在週2回訪ねているが、コンタクトするのも難しい。現在は不動産屋にコンタクトをするしかないが、行政に守秘義務がある中で、どのように住んでいる人を見守るのか。集合住宅に新しく入ってきた人を把握できるシステムを義務づけなければならない。最終的に自治会に任せるならば、市は強いリーダーシップで取り組んでもらいたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災に関して、高齢者等の要支援者の対策の具体化が必要である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の相談を行っているが、介護保険ができたことで、サービスが充実したと感じている。 	施策14 介護保険制度の円滑な運営	
	障害者サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・相談だけではなく、ネットワークを作っていくことが必要である。 	施策15 障害者への相談支援機能の充実
		<ul style="list-style-type: none"> ・精神について小さなオープンスペースを会員の会費で行っているが、各地域に相談・憩いのスペースがあると良い。高齢者が通うのは難しい。居場所があることを求めていると思う。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・障害者に関して、ケースワーカーがいるが、件数を多く持っており、訪問が少なく、相談先がない現状がある。 	施策16 障害者の社会参加支援
<ul style="list-style-type: none"> ・障害のあるお子さんの保育体験として、中・高生が来ている。不登校の生徒も実習はきちんとしていた。また、問題を抱えた子どもが来ていたが、卒業後も顔を出してもらえ関係を構築できた。地域の中での受け皿が必要と思う。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・精神関連のオープンスペースに来る人は、単身か、年をめた親が見守っていて、地域に出ていない場合が多い。様々なオープンスペースがあるようなので、そのような場に参加するように促していきたいと考える。様々な団体がオープンスペースを行っているので、市にはそのような取組を消さないように支援をお願いしたい。 	施策16 障害者の社会参加支援		

健康・福祉分野	基本計画	障害者の充実	・障害を持っている人は、通訳者がいなかったり設備面の不足等により、イベントに参加しにくい場合がある。そのようなときや、防災時の援助などに活かしてもらえらる仕組みを作ってはどうか。	施策16 障害者の社会参加支援
		生活の安定の確保	・生活保護について、私達の関係する福祉施設では求人しても応募がない状態である。	施策22 低所得者の自立支援
			・一方で生活保護が問題となっているが、きっかけがあれば、生活保護から抜け出せる人は多くいると考える。そのような方を外郭団体や補助金を出している団体などで一時的にでも雇うことができると良いと考える。一時的にでも就労をサポートすることができれば良いのではないか。	
		地域福祉活動の支援	・有志による「シニア聞き込み隊」は良いと思う。社会福祉協議会であったり、傾聴ボランティアを育成していることもあるので、高齢者だけではなく、様々な形で訪問できる仕組みができると良い。社会福祉協議会が中心になり、フォローする体制を整えていくと良いと思う。	施策25 支え合いのまちづくりの促進
・民生委員として登校ボランティアを行っている。民生委員は地域の人のために尽くしているが、まだまだ至らない点もある。地域でも困っている方は、地域の民生委員に相談するようお願いしたい。 ・16年前からまちづくりの視点で赤ちゃんから高齢者まで、困ったときに市民同志で助け合える活動を行っている。今後は、多世代の居場所づくりを進めたいと考えているが、なかなか進まない現実がある。市に資金や場所のサポートをお願いしたい。具体的には、空き家を貸す方への助成などの支援を期待する。	施策26 福祉のまちづくりの推進			

■生活・環境分野

区分	意見	反映箇所
生活・環境分野	・浅間山は多くの自然が残っていて、浅間山の良さを市民に知っていただきたい。やがては、コミュニティ公園としたい。市で浅間山を市民に積極的にPRしてもらいたい。	2-基本施策(1) 自然・生態系の保護と回復 〔施策27 自然環境の保全の推進〕
	・公園の管理なども地域に戻した方が良い。地域がどのように公園を利用するかを考えることが必要ではないか。地域での子育てが、充実した際に、そこを整理統合した方が良いと考える。	2-基本施策(2) 緑の整備 〔施策28 緑のまちづくりの推進〕
	・8年前から公園整備活動を行っているが、老人会やシルバー人材センターに委託している場合があるが、地域住民が行う制度にもっていくべきである。	
	・公共花壇についてもほとんど業者が管理しているが、市民が参加できるようにすべきである。	
	・遊歩道の清掃を外郭団体に任せるのではなく市民団体に任せることも検討することが必要ではないか。	2-基本施策(3) 生活環境の保全 〔施策29 環境に配慮した活動の促進〕
	・一般的な感覚として、環境は詳しい人がやっていて、私たちには関係ないと思っている人が多く、環境保全が必要なのかを市民に理解してもらう必要がある。環境問題が自身の問題であるということを計画で伝え、子ども達にも知識を持ってもらい、環境について再認識してもらう取組が必要である。	
	・地球温暖化対策が市民検討協議会からの提言書では抜けているが、行政や市業者も含め、対応が必要であり、総合計画でも触れる必要がある。	
・地域防災計画があるが、東日本大震災を踏まえて見直す必要がある。見直しについては、地域の関係者の意見を踏まえて見直すことが必要である。		
	・いざというときは、相互扶助の意識が必要である。	2-基本施策(6) 災害対応能力の向上

基本構想		<ul style="list-style-type: none"> ・防災倉庫の場所、中身が今のままで良いのかについても検証する必要がある。また、点検者を決めて定期的な点検を行うことも必要である。 	基本構想（3）防災・減災のまちづくり プロジェクト2：防災・減災のまちづくり [施策37 危機感路対策の強化]
		<ul style="list-style-type: none"> ・今回の基本計画の項目で市民検討協議会の提言は漏れている部分が多くある。例えば、墓地に関して漏れている。きめ細かく市民から意見を吸い上げる体制を構築する必要がある。このままでは、きめ細かい意見がないまま計画が策定される懸念があると考ええる。 	2-基本施策（3）生活環境の保全 [施策32 斎場・墓地の管理運営]
		<ul style="list-style-type: none"> ・大企業が立地しているが、帰宅困難者対策及び訓練が必要である。 	2-基本施策（6）災害対応能力の向上 プロジェクト2：防災・減災のまちづくり [施策37 危機管理対策の強化]
生活・環境分野	重点プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・府中の防災計画は、地震、火災、水害を意識しているが、立川断層のことを踏まえた防災計画づくりが必要である。また、市庁舎についてもM7.3に耐えられるか、この対応について記載するべきである。 	プロジェクト2：防災・減災のまちづくり [施策37 危機管理対策の強化]
	自然・生態系の保護と回復	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は、郷土の森に事務所があり、植物、鳥、昆虫などの調査団があった。生物多様性の観点から重点的に取り組んでもらいたい。 	施策27 自然環境の保全の促進
		<ul style="list-style-type: none"> ・管理運営を委託で行うと、業者がやりやすい様になってしまう。里山を大切にしたい理想的な管理を行うことは業者には難しい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の森の公園について、水と緑のネットワークの委員をやっていたが、整備の後にしてみると、思いと違った整備がされた印象を持っている。流れを作っても、子ども達が入って遊べる流れになっていない。審議委員に後で見ってもらうなどの点検をすべき（フィードバックが大切）である。また、生き物がいるような水まわりの整備が大切である。 	
	基本計画	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市全域で野鳥の調査を行っているが、調査によると、どの地域においても野鳥の種類や個体数が激減している。その要因は環境問題であると考えている。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生を含め、近隣住民を集めて、ツバメの集団ねぐらを観察するイベントを四谷小学校前の河川敷で開催した。ヨシ原を保全するために、市の協力を得て市民参加で行っているが、市でも一緒に保全してもらいたい。 			
緑の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の管理を行っていたが止めた経緯がある。助成金に対する報告書を細かく要求される。市の経理の考え方と、NPOの感覚は大きく異なり、公園管理についてNPOに任せられるような柔軟な会計監査が考えられないか。 	施策28 緑のまちづくりの促進	
	<ul style="list-style-type: none"> ・府中崖線を保全するための条例化が必要である。特別緑地保全地区に指定すべきであり、再三市に提案しているが、なかなかそこまで至っていない。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・保全活動に対する市民参加も重要であり、清掃活動などに参加してもらうことで意識啓発につながると考える。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生け垣のコンテストがあったが、このような市民一人ひとりが取り組める施策を考えてもらいたい。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の森付近に、物産店があり、水と緑の拠点としてのねらいがあるはずだが、その機能が不足している。観光物産展として利用するだけでなく、本来の目的に応じた活用をお願いしたい。 	

生活・環境分野	基本計画	緑の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・年を取った樹木についても取組をしっかりとしなければならぬ。樹木は建て替えが効かない。昔植えた桜の木が古木になっているが、これを保護する方向で進めて欲しい。けやき並木に頼らず、これらのポジションがあつて然るべきであり、公共に限らず民間の樹木にも力を入れるべきである。海外では木を切ったら罰則がある場合があるほどだ。 ・自分の家の前に植木鉢を置くことや庭に木を植えるなど、できることを市民が行い、それを市に支援してもらいたい。また、木を植える際には、外来種ではなく、従来あつた木を植えることで生態系保全につながると考える。 	施策28 緑のまちづくりの促進
		生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校で環境学習をしているが、教員により指導内容に大きな差がある。最低限のプログラムは整備すべきで、教員に対する指導も課題である。 ・子どもへの環境教育は重要であり、制度化が必要である。 ・八幡町共和会でLEDの街路灯導入を検討し、市に相談したが、前向きでなく、都が補助金を出すので説明会に行った。LEDは電気料金が3分の1で、球切れが起きなくなる。計算するとCO₂が5分の1となることを府中市に提言したが、予算がなく、都の補助金のみで実施するが、市は安全か分からないとのことで取り合ってくれない。国を挙げて取り組んでいるのに、なぜなのか。道路でも水がしみてCO₂削減ができることあつたが、球切れがなくて安心である。市はもう少し早く考えて欲しい。 ・LED化により電気料の補助金が出るはずだが、提言をしても話がされていないようだ。防犯灯を民間に委ねているような状況なので、それを進めれば安心安全にも結びつくと思う。 	施策29 環境に配慮した活動の促進
	生活環境の保全	生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市独自の環境アセスメントを行うべきである。大規模マンションの整備により、周辺が破壊されていくことが懸念され、人口増加に合わせて環境が破壊されていて、景観計画で景観形成推進地区があるが、規制が弱く十分に推進できていないので、アセスメントが必要である。 ・環境の日（6月5日）を活かしたイベントを実施することを提案する。多摩川であれだけのことができるのであれば、全市で行うと良いのではないかな。 ・毎月20日に府中駅周辺の清掃活動を行っているが、他の駅にも拡大すれば良いと考える。 ・街路樹の管理について、市民も落ち葉を拾うなどの取組が必要である。 ・総合計画、市民の自主的な清掃活動への参加者数の目標が2,900人となっているが、多摩川清掃でも約4,000人の参加があり、目標設定を適切な目標設定にしてもらいたい。 ・違法看板撤去についても、委託業者ではなく、市民が撤去し市が回収すればよいと考える。しかし、今の法律上では、違法となるので、そのようなことを解消する取組を進めることも必要ではないかな。 ・むさし府中青年会議所では、35年前から多摩川清掃を行っている。 	施策30 まちの環境美化の推進

生活・環境分野	基本計画	生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市と一緒に「マナー活動」として夕方6時から啓発活動を行っているが、市民の意識を変えないと、今後は難しいと感じていて、一人でも多くの方に多摩川清掃やマナー活動などに参加いただき、伝えていく必要があると考える。むさし府中青年会議所は、20歳から40歳で構成しているのでフットワークがあるので、体を動かしていきたい。 	施策30 まちの環境美化の推進
		生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市統計書を見ると環境に関するデータは1ページしかない。これでは教員が環境教育に使おうにも使うことができない。まずは、データを作成することが大切である。 	施策31 公害対策の推進
		生活環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線対策も触れられていないが、触れる必要があるのではないかと考える。 	施策31 公害対策の推進
	基本計画	循環型社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯数の50パーセント以上を占める集合住宅から出るごみの分別が進んでいない。集合住宅の分別を進めないと、ごみの減量は進まないのではないかと考える。 	施策33 ごみ減量化・資源化の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・国や都に対する、拡大生産者責任制度を推進する働きかけが必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ減量50パーセントを目標にしているが、新たな目標設定が必要ではないか。コストバランスを考慮した目標も必要である。 	施策33 ごみ減量化・資源化の推進	
		<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルや市民一人当たりのごみ排出量は多摩地域でも良い状況にあり、コストを踏まえた目標設定を行うべきである。 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ごみを半減する目標をしているが、人口増を考えると、一人当たりのごみ量を設定することが現実的であると考える。 		
	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみ処理機を各家庭が購入すればごみは確実に減るが、市が多く助成をすることは現実的ではない。財政状況を踏まえた現実的な計画づくりが必要である。コストをかけすぎでは意味がない。 			
	基本計画	交通安全・地域安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯協会は、毎月4回パトロールを実施しているが、振り込め詐欺が大きな問題である。その他、万引きやひったくりが発生していて、自治会もパトロールに参加しているが、パトロールを強化して、被害がないまちにしたいと考えている。 	施策36 地域安全の推進
			<ul style="list-style-type: none"> ・近年は、高齢者の万引きが増えている。万引きを発見した場合には、注意するなり、お店の人に伝えるなどしてもらいたい。 	
			<ul style="list-style-type: none"> ・ひったくりは、高齢の女性の被害が多いので、気をつけていただきたい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生などにはヘルメットをかぶるよう指導しているが、かぶっている子どもはほとんどいなく、徹底するべきである。効果がなければ、止めるべきである。 		施策35 交通安全の推進		
<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川のサイクリングロードで、歩行者と速い自転車が混在していて危険である。狛江市は舗装を止め、砂利道に戻した。これくらいのことをやらない限り、危険は解消されないのではないかと考える。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自転車の乗り方を覚えるのに、交通遊園を活用できるのではないかと考える。自転車を貸し出すなどの取組を提案する。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども、大人の自転車のマナーに問題がある。交差点の角にコンクリートでできた万年塀がよくあるが、隅切りを行ってもらいたい。このような対策を取らないと、自動車と自転車の事故が減らないと考える。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・交通はマナーの問題でありルールの問題ではない。マナーの徹底をお願いする。 				

生活・環境分野	基本計画	交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の乗り方についてもっと指導してもらいたい。先日、一中で自転車の競技大会があったが、違反の内容の発表もなく、何のための大会か分からなかった。市は駐輪のみならず、乗り方、マナーに対しても取り組んで欲しい。 	施策35 交通安全の推進
		災害対応能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練で学校の関係者がいない設定で行ったが、意義ある訓練を行うことができた。いろいろなことを想定した訓練が重要である。 	施策37 危機管理対策の強化
			<ul style="list-style-type: none"> ・市が行うこと、自治会が行うことなどを明確にしておくべきである。高齢者の避難誘導をどうするのか、対応できる訓練も必要と考える。 ・地域ごとに避難所があるが、避難してみることが必要である。一時避難場所を知らない家庭も多いのではないか。 	

■文化・学習分野

区分	意見	反映箇所
文化・学習分野	<ul style="list-style-type: none"> ・人権・平和の問題は新聞、テレビ等で既にいろいろ啓発されているので、市民として、何をすれば良いのか考える必要がある。 	3-基本施策(1)人権と平和の尊重 〔施策39 人権意識の醸成〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理で懸念されるのが、施策の継続性があると思う。他の指定管理の事例を見ると、利益追求の影響で、行政が固定の職員を配置して実施してきたものが委託業者が変わり、これまで積み上げてきたノウハウが蓄積されないのが懸念される。団体も協力する立場だが、市として芯が通っていないと、どのように協力したら良いかの意思が持てない。 	3-(4)生涯にわたる学習活動の推進 〔施策44 学習機会の提供と環境づくりの推進〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習を始めようとする際のアクセスが不十分ではないか。コミュニティサイトはアクセスしづらく、更新もされていない。最近の人は情報社会の中で育ち、サイトで情報が得られないことが問題であり、改善が必要である。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市では、聴覚障害者、視覚障害者対象の講習会が開かれており、かなりの人が卒業しているが、学んだスキルが活用されていない。自分のスキルアップで終わってしまい、市に還元されない予算投入はどうなのか。都の講習を受けた人も、やはり活動の場がないと思う。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティをどう活性化するかという点で、退職後、地域に帰ってきた方がどのように能力を発揮し、後の世代に経験をつないでいけるかを生涯学習でやってもらいたい、そのための地域の活動家がいなければ話にならない。ファシリテーターや学習サポーターの要請が始まっているが、行政がどう発展させるかを考え、成果を回収しなければならない。縦割り行政が問題なのはその通りで、交流事業等に協力しているが、別途地域での活動を養成する事業が関係なく行われている。その点の整備をしてもらいたい。 	3-(4)生涯にわたる学習活動の推進 プロジェクト1：市民が主役のまちづくり 〔施策44 学習機会の提供と環境づくりの推進〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んでいる人は一生懸命やるが、反応が返ってこない。学習を受けた方にも責任があると思う。例えば、防災マップについても、もらった一度は歩き、どこに何があるかを個々に確認するということが大事であり、歩いてみよう、分からないことは訪ねてみよう等の呼び掛けがあっても良いのではないか。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・市内の有名な彫刻類を誰が造ったかを知らなかった。立川市では中学生が親子で参加し、彫刻の説明を受けた後に、作家と一緒に制作するイベントがある。 	3-基本施策(5)文化・芸術活動の支援 プロジェクト1：市民が主役のまちづくり 〔施策46 市民の文化・芸術活動の支援〕	

文化・学習分野	基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻を見学するツアーなどを足掛かりに周辺から小・中学生を呼んで、親の意識などを変えていくことができれば良いと思っている。 	3-基本施策(5)文化・芸術活動の支援 プロジェクト1:市民が主役のまちづくり 〔施策46 市民の文化・芸術活動の支援〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市は歴史があり、提言書でも指摘されているが、歴史を多くの市民が知り、様々なイベントに参加することで活性化することが必然と思っている。歴史について勉強して生涯学習に生かすことも大事だが、できるだけ府中の歴史を前面に出して、市に足を運んでもらう施策が必要ではないか。 	3-(5)文化・芸術活動の支援 〔施策48 歴史文化遺産の保存と活用〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・認知症のサポーターを行う講座を開催している。大牟田市は、中学生全員をサポーターにしており、年に1回、徘徊高齢者救出訓練を行っている。災害時の昼間に役立つ力を持っているのは、中学生しかいないという話があり、二中では、災害時にお年寄りや障害者を助ける手足になれるよう中学生を教育していこうとしている。 	2-基本施策(6)災害対応能力の向上 〔施策57 青少年の健全育成〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の考え方にある地域の人が学校に足を運んで授業を見学する、ということは大事である。災害時など、いざというときは中学生が頼りになる。また、小・中学校の連携も大事だと思うので、その点も盛り込んで欲しい。 	2-基本施策(6)災害対応能力の向上 3-基本施策(7)学校教育の充実 〔施策53 教育・指導内容の充実〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもとお母さんが相談できる場が「たち」しかない。「たち」のみでは、不足している。また、中高生の居場所がないことが課題である。 	3-基本施策(8)青少年の健全育成 〔施策4 地域医療体制の整備〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや高齢者でも、誰かに役立つ場をつくっていききたい。中・高生も同じであり、自分が役立つという認識を実感できる場所があれば生きる力につながると思う。今回の提言書は、中・高生の育成に関するものが少なく、この点を追加してもらいたい。学校、家庭、コンビニやゲームセンターとは違った中・高生の居場所を市民と市で作ることができると良いと考える。 	3-基本施策(8)青少年の健全育成 〔施策57 青少年の健全育成〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・被災地支援で被災地を訪れたが、復興商店街というものがある。子育て広場、ゲームセンター、菓子をお店があり、その2階には塾やピアノ教室や食堂などがある小さな商店街だった。狭いところではあるが、行き来することができる場であったが、ヒントになるのではないか。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域をどう作っていくのかを考える上では、子どもや高齢者の区切りではなく地域づくりに関する視点での予算が必要である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市の課題は、市がシステムづくりなどをしたり、歴史がある自治会がしっかりしている一方、新規住民が参加できず、新旧の交わりがないことである。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民力をいかにつけていくのかは難しい課題である。新規住民をいかにキャッチしていくのが課題である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・補助金を出している行政が、自治会の方向性の誘導を行ってもらわないと、地域と自治会の構成員が遊離してしまう。 	3-基本施策(9)市民との協働体性の構築 〔施策58 地域コミュニティの活性化支援〕		
<ul style="list-style-type: none"> ・「地域」という言葉の幅が曖昧に感じる。皆その認識が異なる中で、地域に問題を任せるのはどうか。「地域」は受託者ではなく概念であり、固有の名称で説明すれば、どの地区、どの協議会かが分かるが、「地域」という言葉だけでは問題がすり替わると感じるが、どこかでまとめなければ、要素還元的な話になってしまう。「地域」は地区なのか、人のつながりのことか等を整理し、それぞれ施策に予算を使うかを議論しなければ、個別の問題が解決しない。 			

文化・学習分野	基本構想	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のコミュニティの中核は、自治会であると感じる。東日本大震災で自治会の役割は大きかったが、大都市では自治会が崩壊し、新旧住民の存在や少子高齢化の中で、一人暮らし、退職者等様々な人がいる中で、自治会は構成員の利害を反映する組織になっていない。また活動の中身も利害に答えられていない。自治会を解体し、公募役員を入れ、防災や子育て支援など時代の要請に絞って重点的に取り組む等の話も聞いている。 	3-基本施策（9）市民との協働体性の構築 〔施策58 地域コミュニティの活性化支援〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民の役割は、それぞれのグループや団体が連携できることが理想であり、市にはその連携を支援する役割があり、相乗効果も期待できると考える。 	3-基本施策（9）市民との協働体性の構築 基本構想の実現に向けて 1 協働によるまちづくり プロジェクト1：市民が主役のまちづくり 〔施策59 民間活力による地域貢献活動の促進〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度ボランティアセンターの呼びかけで、市民で新しい公共を作るという企画があった。世代を超えた新しい公共を作ろうとしていたが、最終的には市の縦割りにより実行に移せなかった。枠を越えた新しい考え方を反映した計画を策定してもらいたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を地域で行う際に、市は配布物を配布する以外に、自治会で考えていることを踏まえて方針を示すかと思ったら、講習など一般的な内容のみであった。家が壊れた場合はどこで寝泊まりするか等の具体的な話が聞ければ良い。震災での教訓の熱が冷めないうちに、隣近所で助け合うことを自治会に投げ掛け、若い人に参加してもらって、災害時はまず高齢者を誘導する等の話をできるようにしたい。それが今は急務だと思う。 	3-基本施策（9）市民との協働体性の構築 〔施策59 民間活力による地域貢献活動の促進〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動センターが、NPO活動をつなげる役割を果たしているが、横のつながりができにくいと感じている。同じ目的を持ったボランティアとつながりを持つことは重要であり、つながりの部分を深められる具体的な目的を持った会議を期待している。 	3-基本施策（9）市民との協働体性の構築 〔施策59 民間活力による地域貢献活動の促進〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域に皆が集まる場があれば良いとのことだが、行政は子育てや高齢者の関係部門が分かれていて、それらが一緒に仕事を進めることは可能か。 	3-基本施策（9）市民との協働体性の構築 プロジェクト4：健康で元気なまちづくり 〔施策58 地域コミュニティの活性化支援〕
基本計画	生涯にわたる学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習センターは来年度から民間活力を導入して新しい姿になると思う。その中で、市民の関わり方が重要な視点であるが、行政がどのようなビジョンで何をしようとしているかが見えない。具体的にどの施策で何をしようとしているかが、施策に生かされていない印象がある。今まで現計画で何が実現でき、何が実現できないかを総括した上で次の施策を立案してもらいたい。 	施策44 学習機会の提供と環境づくりの推進
		<ul style="list-style-type: none"> ・様々な講座を受けた経験を返そうと思い、パソコンの講座に取り組んできたが、来年度からの指定管理者が決まらなければ、内容や教材をどうすれば良いかが分からない。今年は手探りで個々のグループが動いているが、これでは意欲を持っていても、立ち消えてしまうのではないかと。興味を持って市民が動けるよう先導するのが、市の役割ではないか。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・近年は子どもも多くなり、絵本に興味を持っている親が増えていることを実感している。このことを考えると、子育て支援の意味でもキッズルーム等を充実させる方向で進めて頂きたい。 	施策45 図書館サービスの充実
		<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達に良い本が渡るように活動しており、小さい子どもも参加している。 ・図書館で読み聞かせの活動を行っている。昨年からは毎月行っており、活動が定着している。月に1回児童にも訪問している。 	

文化・学習分野	基本計画	生涯にわたる学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは小学校に入ると図書館に来なくなる。小学生を対象とした取組をしているが、低年齢化する傾向にある。図書館に行くのは敷居が高いので、小学校、中学校が連携し、子どもが本に触れられる機会をつくり、本に親しむことが、人を思いやることやいじめ防止にも繋がると思うので、取り組んで欲しい。 	施策 4 5 図書館サービスの充実
		生涯にわたる学習活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとホールを毎年利用しているが、人気があり、都内からも来ている人がいる。抽選で宗教団体が利用することもあるので、申込者が市民か、あるいは実施する内容等でふるいにかけてる。料金や予約開始時期等で市民が優先されているが、これに加え、市民がより利用できる方法がないのかと思う。 ・文化センターによっては30分、1時間しか使えないところや、高齢者は使えるが、小さい子どもが自由に使える場所が限られているなど部屋を使える時間にばらつきがある。母親同士が話し合えれば、互いに助け合えるのではないか。是政文化センターはキッズルームが充実していて自由に遊べ、母親や幼児同士も顔見知りになり、おもちゃも自主的に片付けている。もう少し部屋の使い方等に幅を持たせられないか。 	施策 4 7 文化施設の有効活用
		スポーツ活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進計画について協議会に昨年参加し、ヒアリングする中で、殆どの団体が推進計画を知らないことが分かった。これでは計画を立てても施策の実行に繋がらないので、垣根を崩すことが必要である。 	施策 4 9 スポーツ活動の支援
		学校教育の充実・青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学校では、時間が来ると児童・生徒に帰るよう放送をするが、下校の際に教員が出てこない。このことが、いじめにつながっているのではないか。子どもは帰るときまで教員が付いて教えなければならないのではないか。 ・今の子どもに指導したら、防犯ベルを鳴らして騒がれる。また子どもたちが器物を破損したと学校に言っても「そうですか」と言われてしまう。これはおかしいのではないか。 ・一人ひとりに向き合って話し、適切に指導・支援すれば子どもは理解し、行動してくれるので、子どもに対してきちんと指導をして欲しい。 ・ごみは自分たちで棄てるのではなく、業者任せになっていて、清掃は子ども達にとって知らない世界になっている。学校で校内清掃をしているが、校外で、高齢者なども交えて清掃する機会を設けて欲しい。 ・年1回実施される多摩川清掃は、これまでは高齢者ばかりが参加していたが、最近は若い家族が参加している。小学生のスポーツクラブ等が、子ども達が清掃に参加できるよう協力しているようであり、清掃を年1回ではなく、年2回にし、他のクラブ等と融通を図って多くの人が参加できるようにして、皆さんで協働で美しくしていければと思う。 	施策 5 3 教育・指導内容の充実 施策 5 7 青少年の健全育成
		青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・育成活動を30年前に始め、徐々に活動が理想に近づいてきている。中学生が主体となりイベントを計画し、ポスターづくり等もするというのが当初の夢で、最近、子ども達がそれをできるようになり、幼稚園から高校生まで、一緒にイベントを実施している。また府老連の方も来て、毎年秋には作文を書いて発表大会を行い、資料館に展示させて頂いている。予算が削減されているが、止めるのも惜しい思いで手作業で取り組んでいるので、予算が減らないようにしてもらいたい。 ・私の地区には、中学生に万引き防止のポスターを書いてもらっている。 	施策 5 7 青少年の健全育成
		青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・私の地区には、中学生に万引き防止のポスターを書いてもらっている。 	
		青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・私の地区には、中学生に万引き防止のポスターを書いてもらっている。 	
		青少年の健全育成	<ul style="list-style-type: none"> ・私の地区には、中学生に万引き防止のポスターを書いてもらっている。 	

文 化 分 野 学	基本計画	市民との協働体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいことをやろうと思うと、既に自治会や他の団体がやっている場合があり、一緒に行えばよいが、情報が多くなく連携ができていない。横のつながりができるシステムが必要であると感じている。 	施策 5 8 地域コミュニティの活性化支援 施策 5 9 民間活力による地域貢献活動の促進
-----------------------	------	-------------	---	--

■都市基盤・産業分野

区分	意	見	反映箇所
都 市 基 盤 ・ 産 業 分 野	基 本 構 想	<ul style="list-style-type: none"> ・景観ガイドラインが策定されているが、業者向けになっていて、市民向けのガイドラインとして中身を見直すことを提案する。 	4 - (1) 計画的なまちづくりの推進 〔施策 6 4 魅力ある景観の形成〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市には駅が 1 4 か所あり、人口・面積あたりでは多く、これらの駅を効率良く活性させるかがポイントである。府中駅以外は小さい駅が点在しているが、駅の周辺では何も揃わず、結局新宿に出てしまうので、その駅の特徴や、その駅でないとできないことを考えておく必要がある。 	4 - 基本施策 (2) まちの拠点整備 プロジェクト 3 : にぎわいのあるまちづくり 〔施策 6 5 駅周辺整備事業の計画的推進〕 〔施策 6 6 けやき並木と調和したまちづくりの推進〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中駅でも、いろいろなものが中途半端で、専門店の充実や府中であれば揃うような店舗、伊勢丹と地元商店街が協力しながらやっていくなどが課題である。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・A地区の再開発が始まるが、完成の際にいかに連携が取れたまちづくりになるのか。再開発が終わると、地元の人がおらず、都内の人が入ってくることが多く、地元商店街・企業としては、地元の人に頑張ってもらいたいので、市が補助するなりして、地元企業が生き残れる再開発にしてもらいたいと思う。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・けやき並木の全面車両通行止めについて、できる限り早く実施してもらいたい。 	4 - 基本施策 (2) まちの拠点整備 〔施策 6 6 けやき並木と調和したまちづくり〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の販売やレストラン等を入れて観光物産館を始めたが、大きな課題として、収益が上がる仕組みをつくるのが挙げられる。また、満足できる農産物が集まるか、観光客がどのくらい来るかのバランスを取っている。 	4 - 基本施策 (5) 商工業の進行 4 - 基本施策 (6) 都市農業の育成 プロジェクト 3 : にぎわいのあるまちづくり 〔施策 7 2 地域商業の進行〕 〔施策 7 4 観光資源の活用・創出による地域活性化〕
	<ul style="list-style-type: none"> ・観光物産館などは、市に来た人にいかに満足してもらうか、後ろ側で支える立場であり、前側で府中市の名前をもっと、市外へPRする戦略が必要である。また、府中市単独で 2 3 区と対抗するのは難しい。多摩地区全体で魅力を高め、商業の機能分担なども含め、地域の魅力を全国に発信する取組が必要である。広域連携とシティセールスを進めるのが進むべき方向性だと思う。 		
基本計画	重点プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・画一化された道路を造るのではなく、地域にあった景観で道路を造るのも必要ではないか。一步入ると他の商店街と違う風景になるよう商店街と相談して計画すると、地域性が出て、親しみをもち利用してもらえるのではないか。 ・箱物をつくることは少なくなると思うが、箱物をつくる際には、函館や横浜の煉瓦倉庫のように、歴史的な価値が出るものを思い切ってつくって欲しい。最初の初期投資で変わるので、将来を見据えて考えて欲しい。 	プロジェクト 3 : にぎわいのあるまちづくり 〔施策 6 4 魅力ある景観の形成〕

都市 基盤 ・ 産 業 分 野	基本 計 画	社会 基盤 の 保 全 整 備	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道と車道の段差を解消してもらいたい。何年までに、どれだけ整備するのかを分かりやすくしてもらいたい。 	施策68 道路等の整備
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市は緑が多いまちであり、この緑を守っていくために、まず温暖化をできるだけ防いでもらいたい。そのためのインフラ整備の観点から、歩道を保水性、排水機能をもっているものにして欲しい。緑を守り雨水対策にもなる。保水機能や温度を下げるものなど、新しいものに切り替えて欲しい。公共的な土地の中では道路の面積が最も広い。道路で温暖化対策を取ることでもまちが変わり、景観重視のためにも推進して欲しい。 	施策68 道路等の整備 施策69 道路等の適正な維持管理	
		<ul style="list-style-type: none"> ・観光について考える際には、商店など様々なものが人を呼ぶことに対応していなければならない。外国人が来るにあたっても対応する場がなければ対応できない。そのような細かい部分についても検討してもらいたい。 	施策74 観光資源の活用・創出による地域活性化	
		<ul style="list-style-type: none"> ・イベントをやるには多目的展示場が少なく府中市はやりにくい。ルミエール府中にしても、上が図書館であり、工業などの展示会ができない。今後、建て替えが生じた場合、多目的なホールを建設し、様々な分野で全国ベースの展示ができるようにしてほしい。伊勢丹でも物産展をして、むさし府中商工会議所の会頭まで来てPRしている。そのような場所を提供できないといけないと思う。商業・観光など様々な団体が力を合わせ、どのような建物が良いかを考えて欲しい。トラックなどが乗り入れられる施設であれば、市の外れでも良いのではないかな。 	施策73 工業の育成	
		<ul style="list-style-type: none"> ・農地保全だが、市民が農業に触れられる農業公園を整備していただきたい。園芸ボランティア制度があるが、市民がボランティアすることで一部の農地を保全することに寄与するので拡大してもらいたい。 	施策76 農地の保全、府中産農産物の流通拡大と担い手の育成	
		<ul style="list-style-type: none"> ・府中市は「50年後にも農地を」というスローガンを掲げている。多面的な機能として農地保全が大事であるという認識は一緒だが、従事者としては、農地は生産し利益を生み、経営が成り立たなければ保全は難しく、相続の際に農地を保全する際にも市が農地そのものを買ってもらい、保全する政策がなければ厳しい状況である。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の販売にも力を入れているが、もっと市と生産者、市民が一体となって緑を守ることも考慮してもらいたい。 				

■行財政運営分野

区分	意 見	反 映 箇 所
行 財 政 運 営 分 野	<ul style="list-style-type: none"> ・作った計画をどのように遂行していくのか市民に示していただきたい。ほとんどの市民は総合計画を知らないと考える。もっと市民に広めてもらいたい。 	行財政運営の大綱 (1) 市民の参画意欲を高める市政運営 第4章基本構想の実現に向けて 2 進行管理について [施策80 計画の着実な推進に向けたPDCAサイクルの充実]
	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちは各文化センター、図書館で子どもと話しているが、イベント情報は広報で情報提供され、当日図書館でもアナウンスされるが、まんべんなく伝わってなく、チャンスがなければ入ってこない。発信しても相手に到達しなければ意味がない。 	行財政運営の対抗 (1) 市民の参画意欲を高める市政運営 プロジェクト1：市民が主役のまちづくり [施策78 広報活動・情報公開の充実]

行 財 政 運 営 分 野	基 本 構 想	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園や保育園を通じて知らせを出した際に、見た方から、ITを利用してはという話があり、この点を工夫すると事業が円滑に進むのではないか。 	行財政運営の対抗 (1) 市民の参画意欲を高める市政運営 プロジェクト1：市民が主役のまちづくり 〔施策78 広報活動・情報公開の充実〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティに参加していない市民の方が多くと考えるが、インターネットやフェイスブックなどで市民から発信してもらった方が良いのではないか。若い人にとっては、これらの媒体の方が広報より身近であると考ええる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを構築するためには具体的な数値目標を立てるべきである。 	行財政運営の大綱 (2) 経営的な視点に立った市政運営 第4章基本構想の実現に向けて 2 振興管理について 〔施策80 計画の着実な推進に向けたPDCAサイクルの充実〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民に分るように評価結果を出してもらいたい。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルに関して行政の問題は、目標設定があいまいなことである。1年単位でのチェックも問題で、民間は月次決算や、月次チェック、四半期チェックなども行なっている。総合計画についても、6年間の目標だけではなく、年次目標を設定し、進ちょく管理することが必要であると考ええる。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・土地の問題だが、府中市は刑務所や自衛隊など公共の施設も多く、長期で見れば1つずつ考え直す必要がある。市の問題だけではないが、この問題を解決すれば様々なことができるので、青写真を一回書くことは重要である。 	行財政運営の大綱 (2) 経営的な視点に立った市政運営 〔施策81 長期的視点に立った公共資産の維持・活用〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・市民の役割が書かれているが、行政の役割が単年度事業のように見える。長期の展望に立った内容を検討してもらいたい。 	基本構想の実現に向けて 1 協働によるまちづくり プロジェクト1：市民が主役のまちづくり 〔施策82 市民のニーズや行政課題に的確に対応できる人材の育成〕
		<ul style="list-style-type: none"> ・協働を推し進めるのであれば、協働を専門にした部署があれば良いと思う。 	
		<ul style="list-style-type: none"> ・計画は作ったら終わりではない。その後の運営していくソフトの部分が重要であり、市民と協力しながら動かしていただきたい。 	第4章基本構想の実現に向けて 2 進行管理について
		<ul style="list-style-type: none"> ・第5次総合計画の評価を行ったものがないのか。評価組織を作るべきであり、市民を含めて評価する組織が必要である。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画審議会を評価部門として位置付けて継続し、年度ごとに達成状況を書類として残し、適切な評価を行うためには、第三者機関が行うべきである。 			
<ul style="list-style-type: none"> ・行政が計画を立てると総花的になるのは一般的な傾向だが、行政の役目で言えば、行政が自ら行うべきもの、民間ができるもの、民の声を聴く部分を役割分担した上で意見を聞かないと、まとまりがつかない気がする。これから解決に向けたプロセスを示していくことになると思うが、実効可能性や評価などはどのような段取りで検討していくのか。 			
基 本 計 画	継 続 的 か つ 安 定 的 な 市 政 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・「高度情報化に依存しない仕組み」とあるが、この捉え方は今の時代には違和感がある。今は情報通信技術を活用せざるを得ない。 	施策84 情報通信技術の活用
	持 続 可 能 な 財 政 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・歳入の問題で、平和島競艇が厳しいことも挙げられるので、今後10年、20年先にやっていくべきかを考える必要がある。 	施策81 長期的視点に立った公共資産の維持・活用 施策85 持続可能な財政運営
		<ul style="list-style-type: none"> ・土地や歳入歳出はまちづくりに絡んでくるので、これらの問題は抜本的に考えて欲しい。 	

行 財 政 運 営 分 野	基 本 計 画	持 続 可 能 な 財 政 運 営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4、5年は長いようで短い。予算の中では、結局日々の繰り返ししかできない。市の将来を考えるには、自分たちが死んだ後に市がどうなるかを頭の隅に置いてやらなければならないと思う。 ・ 金がかからずですぐ取り組めるものも多くあり、それが30年後の府中市に繋がってくると思うので、その点を重ねて申し上げたい。 	施策81 長期的視点に立った公共資産の維持・活用 施策85 持続可能な財政運営